

城南連盟ローカル・ルールについて

1. グラウンド以外でのバット使用は禁止です

グラウンド以外での素振りや、グラウンド外で簡易ネットを設置しての打撃練習は禁止

2. 試合開始時刻 30 分前または打順表交換以降に関する注意事項

ベンチ入り(ユニフォーム着用)の監督・コーチ及び選手のみグラウンド立入可能です。それ以外の大人はグラウンドに入れません。グラウンド内では次の事が行えます。キャッチボール、ペッパー、サイドノック、素振。ネット使用やトスバッティングは出来ません。

3. ベンチ入り可能な大人について

ユニフォーム着用の監督・コーチ、3名までと(30、29、28、31、32いずれかの背番号)、ユニフォーム以外の服装で指定のIDパスカードを着用した、代表、マネージャー、スコアラー3名、合計6名までベンチに入ることが可能です。監督・コーチ以外がサインを出したり選手への指示はできません。 試合中ベンチ外へ出て、選手へ指示できません(教育部は例外規定あり)

※ 審判から退場処分を受ける場合があります。

なお、季節等を考慮し熱中症対策等の保護者2名まで、ベンチ入り可能です。

マナー向上のため、応援の方々は、一三塁より後方での観戦をお願い致します(ベンチ裏不可)。

野球にヤジは必要ありません【競技者必携 P12】

大人がいかなる状況であっても選手を委縮させるような言動を禁止します【競技者必携 P 61】

4. ビデオ機器の設置場所について

バックネットサイドより側方以遠に設置してください。バックネット裏(ネット越し)の設置は禁止。

5. オーバーエイジ枠の選手について

連盟が承認したオーバーエイジの選手は、小学女子を除きバッテリーは出来ません。打順表にオーバーエイジの選手である事を明記してください。中学1年リーグは打順表に2年生4名まで登録可能ですが同時に出場できるのは2名まで。

6. DH 制(中学 1 年生リーグ、教育リーグ) 【別表参照】

打順 10 番に限り DH を指名することが出来る。アクシデントで守備者に退場者が出た場合、指名打者を守備につかせることが出来る(2024 年から大田区大会で採用される DH 制とは異なる)

7. 中学 1 年生リーグ、教育リーグ(4年生以下)のベンチ入り選手全員出場義務化【別表参照】

試合当日のベンチ入り選手全員が試合に出場しなければならない

- 中学1年リーグでベンチ入り 2 年生(オーバーエイジ)全員出場の義務はありません
- 中学1年リーグで1年生のベンチ入りはやむを得ず6名になった場合、OP 戦扱いとなり試合結果は 0-7 の不戦敗となります

8. 全試合 リ エントリー制【別表参照】

ベンチ入り選手 10 名以上の場合、全員出場した後にアクシデントで退場者が出た場合、その試合で最後に退いた選手を再出場させることが出来る

9. ベースコーチ

教育 3 年生以下の試合に限り、ユニフォーム着用の監督またはコーチがコーチャーズボックスに入ることが出来る

10. 試合の成立回数【別表参照】

正式試合は、リーグ戦・トーナメント戦共に、中学部 7 回、小学部 6 回、教育部 5 回とする。

試合成立回数は、

リーグ戦： 中学部・小学部・教育部 4 回、中学1年リーグ5回。

トーナメント戦： 中学部・小学部 4 回、 教育部 3 回

ただし、90 分を過ぎた場合には回数に関係なく試合成立し次の回に入らない。同点の場合タイブレークを行い決着する。

- 先攻チームの攻撃中にタイマーが鳴った場合はこの回を最終回とする。
- 後攻チームの攻撃中にタイマーが鳴った場合は先攻チームがリードしている時はこの会が最終回となる。後攻チームがリードしている場合タイマーが鳴った時の打者を最終打者とする(勝逃あり)。
- 決勝トーナメント戦の決勝戦は120分

11. 雨天等試合途中での中止

雨天・日没等により試合続行が不可能と審判部長が判断した場合、試合成立回未満の場合は後日再試合を行う。試合成立回以降の場合、均等回の得点で勝敗を決する。試合成立回以降で均等回同点の場合、後日タイブレークを行い決着する。タイブレークを行う際は試合中止時の投球回数・メンバーは引き継がない。

12. タイブレーク

同点で規定時間を過ぎても決着がつかない場合、1回に限りタイブレークを行う。無死一二塁継続打順。タイブレークでも決着がつかない場合、最後に出場していた双方の選手9人で抽選とする。

13. コールドゲーム【別表参照】

14. 打者一巡制(教育部4年生以下リーグ戦)【別表参照】

4年生以下の試合ではリーグ戦に限り打者一巡交代とする

15. 試合開始前のブルペン捕手

試合開始前に限りユニフォーム着用の監督またはコーチ1人がブルペン捕手を務めることが出来る(マスクを着用する事)。【競技者必携 P42-8(1)】

16. 試合中のキャッチボール

ファウルエリア内の一三塁より後方で、選手1組までキャッチボールを行うことが出来る。教育部ではユニフォーム着用の監督またはコーチ1人が選手とキャッチボール可能。

攻守交替時や投手のウォーミングアップ時に控え選手が捕手を行う場合、マスクを着用する。

教育部ではユニフォーム着用の監督またはコーチ1人が準備投球時の捕手を行うことが出来るが、マスクを着用する。

17. ボーク

教育部ではボークを取らない。ただし、ボークにより走者がアウトになった場合、審判員の判断で不利益を取り除く。走者三塁でボークをした場合、走者を三塁に留める。

18. 攻守交代時の守備練習は一塁手の補助員(1名)の他に外野手とキャッチボール可能

2023年の競技者必携で「控え選手がベンチを出て守備練習を見守ることを禁止する」が新規追加されたため、当連盟ではグラウンド事情を考慮し「一塁手の補助員(選手1名のみ)を認めま

す」としましたが、2024年競技者必携 P57-11(3)で「攻守交代時に外野手とキャッチボールする事」が認められました。一塁手の補助員(選手1名)及び外野手とのキャッチボールを認めます。

19. 次打者席での素振りを禁止する

次打者席とベンチが近接しているので安全上の措置。投手の準備投球に合わせない、投球動作のタイミングをずらす等関係なく禁止。ファールエリアやベンチ裏も禁止。**打席に入る際、ダートサークル付近で行ってください。**

20. ボールデッドライン付近の捕球について

- 1) ボールデッドライン(ベンチラインを含む)を超えた飛球を捕えてもファウルボール。
- 2) ボールデッドライン(ベンチラインを除く)より内側の飛球を捕えた場合でも野手がラインを越えて倒れ込んだらボールデッド(打者アウト。各走者は野手がボールデッドの箇所に入った時の占有塁から1個の進塁が許される)。5.06 b 3 (C)
- 3) ボールデッドライン(ベンチラインを除く)より内側の飛球をスライディングキャッチした場合や飛球を捕えた後に倒れ込まなかった場合、野手がラインを越えても(踏み込んで)インプレー(走者がいればタッチアップ可能)。
- 4) ベンチラインより内側の飛球をスライディングキャッチした野手がベンチラインを超えた場合や捕球時(捕球後の送球含む)にベンチラインを越えた(踏み込んだ)場合ボールデッド(打者アウト。各走者は野手がボールデッドの箇所に入った時の占有塁から1個の進塁が許される)。

※ 審判員は4)になりそうだと判断した時は安全上、直ちに「ファウル」を宣告する。

21. 少年2・3号面外野のボールデッドラインについて

少年2・3号面外野のコーンを打球が超えた場合、直接またはバウンドのゴロを問わず全てボールデッド(テイク2)とする。

22. 教育リーグにおける 6.01b の適用除外について

ベンチ(攻撃側・守備側を問わず)やコーチーズボックスの選手がまだボールデッドになっていない投球・打球・送球を捕球したり(自分の占めている場所を譲らず)妨害してしまった場合、妨害対象の打者あるいは走者をアウトにせず、投球当時の占有位置に走者を戻す。投球数はカウン

トする。

23. 給水タイム等

守備の時間が概ね 20 分を経過したら審判員により給水タイムを設けることがある。給水タイムやケガの手当て等の場合は試合時間に含めない(タイマーは止める)。

24. グラウンド撤収

最終試合のチームは、外野ネット、サイドネット、ベース、ポール等の速やかな片付け及び本部倉庫への速やかな道具運搬を行なってください。大人面の外野ネット撤収は指導者の指導の下、行ってください。

25. マナー

投手が投手板に着いたら投手の動揺を誘うような声を発してはならない【競技者必携 P 61】

以下【別表】

リーグ戦

	試合回数	コールド	ベンチ入 全員出場	打者一巡 交代	DH制 打者10番	リエントリー	試合時間
中学	7回	4回10点、5回以降7点	義務なし			○	90分
中学1年		5回以降10点	○		○		
小学	6回	4回10点、5回以降7点	義務なし				
教育(4年以下)	5回	4回以降10点	○	○	○		

上部大会出場チーム選出トーナメント

	試合回数	コールド	ベンチ入 全員出場	打者一巡 交代	DH制 打者10番	リエントリー	試合時間
中学	7回	4回10点、5回以降7点	義務なし	採用 しない	採用 しない	○	90分 (決勝戦は 120分)
中学1年							
小学	6回						
教育(4年以下)	5回	3回以降10点					

2024年(令和6年)10月11日 改定